



01

理念は私たちの  
道しるべ

理念に基づき看護を考えるプロセス  
で思考力やプロ意識、自ら学ぶ力を  
育てます。

02

看護の技を常に追求

基礎看護学に立ち戻り、実践を振  
り返って看護の基礎を鍛えます。

03

新任訪問看護職員  
育成プログラム

大阪府に認定を受けた、独自のカ  
リキュラムを準備しています。

04

高度医療に対する  
OJT

重症心不全ケアにこだわって、高  
度医療に対応できる知識を養いま  
す。

05

実践を科学的に  
検証しながら前進

認知症ケア・緩和ケア・難病ケア  
は、研究者と協働で質の向上をめ  
ざします。

06

学び合える  
風土づくり

看護師の個性や特技を活かして学  
び合える環境づくりをしています。

## 01 理念は私たちの 道しるべ

理念に基づき看護を考えるプロセスで思考力やプロ意識、自ら学ぶ力を育てます。

「“これは看護だ”と堂々と言えるなら何をしても構わない」これがななーる訪問看護ステーションのモットーです。

「生きる」を「生きる」に導く看護という理念を道しるべとして、看護の意味を深く考えながら実践し、そのプロセスで思考力やプロ意識、自ら学ぶ力を育てるのが「ななーる流看護師育成」の姿です。

看護の力で利用者さんの命を護り、質の高い暮らしを支えるために、看護系大学の基礎看護学講座に協力を求めて、学生時代に学んだ基礎看護学に戻り「看護の概念」「日常生活援助の持つ力」「基本的な看護技術」を専門的に学びます。

看護の基礎技術を学ぶとは、「やり方」を教わることではありません。対象に応じて応用力を発揮するには、エビデンスに基づいた看護の基礎を知っておくことが求められるため、大学での基礎教育を復習することから始め、在宅看護への応用技術を検証していきます。

< 復讐する基礎看護学の教育内容 >

- フィジカルアセスメント
- メンタルアセスメント
- 日常生活援助の意義
- 清潔援助技術の演習 ほか

## 02 看護の技を常に追求

基礎看護学に戻り、実践を振り返って看護の基礎を鍛えます。

●教育の目的

- ①理念である「生きる」を「活きる」に導くという視点から批判的思考力を用いたアセスメントやケアの実践能力を高める。
- ②ななーるが強みとする領域（心不全・認知症・緩和ケア）のレディネスを統一する。

●教育目標

ななーる訪問看護ステーションの理念に基づいた看護が展開できる。

●行動目標

- |       |   |
|-------|---|
| 入社1か月 | ななーる訪問看護ステーションの理念が理解できる。<br>自己の目標に沿って行動できる。   |
| 入社3か月 | ななーる訪問看護ステーションの理念に沿った看護が計画できる。<br>訪問看護の概要を理解して訪問看護師が果たすべき役割が考えられる。<br>訪問看護の一般的な援助が1人で実践できる。 |
| 入社9か月 | ななーる訪問看護ステーションの理念に沿った看護が実践できる。<br>当社強化領域（認知症・心不全・緩和ケア）の基本的な看護が実践できる。                        |
| 入社1年月 | 自己の実践がななーる訪問看護ステーションの理念に基づくか評価できる。  |

03

新任  
訪問看護職員  
育成プログラム

大阪府に認定を受けた、独自のカリキュラムを準備しています。

## 04 高度医療に 対するOJT

重症心不全ケアにこだわって、高度医療に対応できる知識を養います。

医療は病院中心から在宅中心へとシフトし、高度な医療ニーズが在宅看護にも求められるようになっていきます。最先端の在宅医療に対応できる看護力が養うために、希望に応じて積極的に・主体的に学べる環境をつくります。

特に「心不全パンデミック」がやってきている現在社会のニーズに応えるため、重症心不全医療の教育については特に力を入れ、医師を交えた勉強会の開催や、ステーション内での定期的な事例検討会を行っています。心不全ケアでは地域のリーダーを目指して、重症心不全末期への緩和ケアや、在宅での重症心不全管理などの経験を積み上げながら、学会・雑誌等で全国の訪問看護師に対して積極的に情報発信しています。

## 05 実践を科学的に 検証しながら前進

認知症ケア・緩和ケア・難病ケアは、研究者と協働で質の向上をめざします。

超高齢社会のニーズには、認知症者の増加・多死社会における緩和ケアニーズの増加が見込まれています。また難病の方は、訪問看護へのニーズが常に高いのが現状です。そんな社会のニーズに貢献するため、この3領域の看護に対する質向上にもこだわっています。

認知症ケアに対しては大阪大学大学院医学系研究科 老年看護学研究室と毎月抄読会を開催。また同教室と事例検討や共同研修を行うことで、エビデンスに基づく認知症ケアが創造できる力を育みます。

緩和ケア・難病ケアに対しては、専門性を持つ看護師をリーダーにして定期的に事例検討や学習会を開催しています。

## 06 学び合える 風土づくり

看護師の個性や特技を活かして学び合える環境づくりをしています。

看護師は、これまでの経験や個人のキャラクター、また個人の興味関心に応じて自分の「得意なこと」や「得意になりたいこと」を出し合います。そして「得意」が似ているチームを作ってその内容をより深く学び合ったり、スタッフの相談役になったりすることで、個人の能力向上と、チーム全体の看護の質向上につなげています。

また毎週発行する社内報で互いの関係性強化に挑み、「気軽にわからないことは詳しい人にアドバイスをもらう」というように、学び合える風土をつくり、成長へと導きます。

また、毎年自分の看護を振り返るために事例発表を行い、自己の成長を実感し、更なる目標設定へとつなげます。



**ななーる**  
訪問看護ステーション